

愛媛県愛南町の干潟で確認されたクシテガニ (カニ下目ベンケイガニ科)

山本藍子*・水野晃秀**・町田吉彦*

Record of a semi-terrestrial crab *Parasesarma plicatum* from Ainan Town,
Ehime Prefecture, southern Japan (Brachyura : Sesarmidae)

YAMAMOTO Aiko*, MIZUNO Kouki** and MACHIDA Yoshihiko*

Abstract Two specimens of semi-terrestrial sesarmid crab *Parasesarma plicatum* were collected from Katano-hama mud-flat in Ainan Town, Ehime Prefecture, southern Japan. This represents the first record of this species from Ehime Prefecture, and Katano-hama mud-flat is the fifth locality for this species on Shikoku Island, southern Japan.

Key words: Decapoda, Brachyura, Sesarmidae, *Parasesarma plicatum*, new record, Ehime Prefecture.

Davie *et al.* (2004)によれば、ベンケイガニ科の *Parasesarma plicatum* (Latreille, 1803) はインド・西太平洋に広く分布し、国内では東京湾、相模湾、長崎、熊本市の白川、沖縄県金武町の奥首川から知られている。和田ほか (1996) は本種を希少と位置づけ、日本では関東以南から九州までに分布するが、普通に見られる場所は三浦半島周辺、岡山県周辺、徳島市周辺、山口湾、有明海周辺としている。

本種の和名に関し、三宅 (1983) は1934年に中沢毅一がシーボルト日本動物誌の復刻日本語版の解説で本種の和名をクシテガニとしたとしており、三宅 (1983) は本種の和名をクシテガニ (オオユビアカベンケイガニ) としている。酒井・細木 (2002) によれば、酒井 (1976) が本種に新和

名オオユビアカベンケイガニを与えたとあるが、明らかにクシテガニが古い。なお、山口・馬場 (2003) は本種をクシテガニとしている。したがって、本報告では三宅 (1983) に従い、クシテガニを本種の和名として用いる。

本種が四国に分布しているのは明らかである。橋口 (1975) は高知市の浦戸湾で本種を確認しているが、標本は残されておらず、また、詳細な産地は不明である。本種は高知県の絶滅危惧IB類に指定されており、高知県内では現在、須崎湾奥部、四万十市の四万十川の支流の竹島川、土佐清水市の下ノ加江川に生息するとされている (酒井・細木, 2002)。本種は徳島県の絶滅危惧II類であり、徳島県では県北の吉野川河口域にのみ生息している (徳島県版レッドデータブック掲載種

*高知大学理学部海洋生物学研究室

〒780-8520 高知市曙町2-5-1

Laboratory of Marine Biology, Faculty of Science, Kochi University, 2-5-1, Akebono-cho, Kochi 780-8520, Japan

**愛媛県立宇和島水産高等学校

〒798-0068 愛媛県宇和島市明倫町1-2-20

Ehime Prefectural Uwajima Fishery High School, 1-2-20 Meirin-cho, Uwajima 798-0068, Japan

検討委員会, 2001). 愛媛県においては, 1990年から1993年頃, 本種が愛媛県松山市の重信川の河口で採集されたが, 標本は現存しない(大森, 私信).

愛媛県愛南町の御荘湾の奥部には干潟が発達し, 地元では片ノ浜と呼ばれている. 2006年8月23日に著者らが片ノ浜(32°57'38" N, 132°33'13" E)で実施したカニ類の調査で, クシテガニの生息が確認された. 愛媛県産の標本に基づく本種の記録はこれまでにないため, 以下に報告する.

調査は, 愛南町の御荘湾の最奥部に流入する僧都川の河口の右岸に発達する干潟で実施した. 標本は四国自然史科学研究センター甲殻類標本(SINH-CR)に登録されている.

Parasesarma plicatum (Latreille, 1803)

クシテガニ

(Fig. 1)

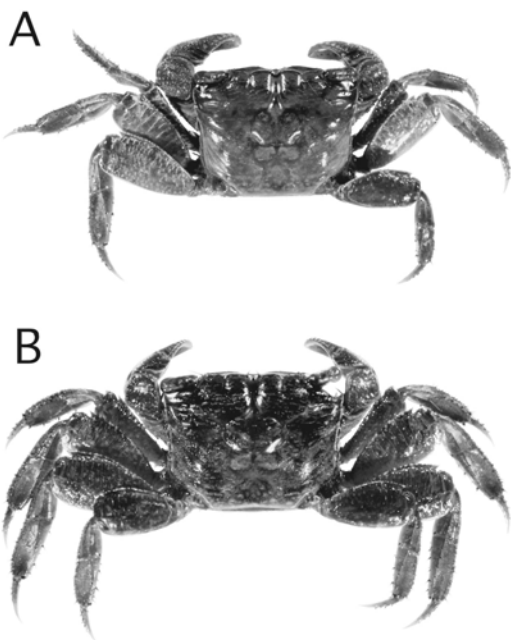


Fig. 1. *Parasesarma plicatum* from Ainan Town, Ehime Prefecture. A: SINH-CR 3835, male; B: SINH-CR 3836, female.

調査標本(2個体): SINH-CR 3835, ♂, 甲幅23.3mm, 甲長18.5mm, 2006年8月23日; SINH-CR 3836, ♀, 甲幅20.2mm, 甲長15.5mm, 2006年8月23日.

記載: 甲はやや横長の四角形をなす. 前側縁には眼後歯の後方にわずかなくぼみがあるが, 歯はない. 甲域はよく区画される. 鉗脚先端部は濃赤色で, 可動指の上面に6~8個の大きな顆粒があ

る. 鉗脚の掌節の上面に2列の剛毛をともなう稜線が走る. 歩脚は側扁し, 長節は幅広く, 前縁末端部に1歯がある.

備考: 愛媛県においては, 1990年から1993年頃, 本種が松山市の重信川河口で採集されたようであるという情報のみしかなく(須賀, 私信), 本研究が本種の愛媛県初記録となる. 片ノ浜干潟の奥部には本種が多数生息していたが, 本種が四国では希な種であることは明らかであり, 標本の採集は雌雄1個体にとどめた.

須賀(2003)によれば, 愛媛県レッドデータブックに掲載されているカニ類で産地が御荘湾と明記されている種は, 愛媛県絶滅危惧I類のシオマネキ *Uca arcuata* とムツハアリアケガニ *Camptandrium sexdentatum*, 愛媛県準絶滅危惧種のハクセンシオマネキ *Uca lactea*, ヒメヤマトオサガニ *Macrophthalmus banzai*, クロベンケイガニ *Chiramantes dehaani* およびユビアカベンケイガニ *Parasesarma acis* である.

本研究において, 片ノ浜でクシテガニと同時に確認された種は, ユビアカベンケイガニ, ハクセンシオマネキ, ハマガニ *Chasmognathus convexus*, アカテガニ *Chiramantes haematocheir*, ベンケイガニ *Sesarmops intermedium*, フタバカクガニ *Sesarma bidens*, カクベンケイガニ *Sesarma pictum*, アシハラガニ *Helice tridens*, ヒメアシハラガニ *Helice wuana*, タイワンヒライソモドキ *Ptychognathus ishii*, ヒメヒライソモドキ *Ptychognathus capillidigitatus*, ケフサイソガニ *Hemigrapsus penicillatus* およびチゴガニ *Ilyoplax pusillus* である. これらの種のうち, アカテガニ, ハマガニ, ヒメアシハラガニは愛媛県準絶滅危惧種である(須賀, 2003). また, これまで愛媛県でほとんど情報がなかったタイワンヒライソモドキと, 愛媛県初記録となるヒメヒライソモドキについては, 山本ほか(2007)が言及している.

山本ほか(2006)は蒲生田岬以南の徳島県南部海岸の干潟環境でカニ類の調査を実施し, 多数のカニ類を報告したが, クシテガニは記録されておらず, 本種の徳島県の産地は吉野川河口域のみと考えられる.

以上のように, 平城干潟は貴重なカニ類の生息地であることが再確認されたと同時に, 現時点での四国におけるクシテガニの第5番目の産地であることが明らかとなった.

謝 辞

愛媛県での本種の情報を提供していただいた大森浩二博士（愛媛大学沿岸環境科学研究センター）、須賀秀夫氏（財団法人愛媛県総合保険協会）に厚く御礼申し上げます。同時に、Fauna Japonicaの復刻版でクシテガニの和名を確認していただいた国立科学博物館の篠原現人博士に厚く御礼申し上げます。なお、本研究は山本が受領した公益信託ミキモト海洋生態研究助成金による成果の一部である。

引用文献

- Davie, P. J. F., D. Guinot and M. Turkey (Sakai, K., ed.). 2004. Crabs of Japan. Version 1.0. Biodiversity Center of ETI, World Biodiversity Database CD-ROM Series. UNESCO-Publishing, Paris.
- 橋口義久．1975．浦戸湾における甲殻類，とくにエビ・カニ類の生息状況．高知港（種崎新港）建設に係る環境事前調査報告書，87-100．
- 三宅貞祥．1983．原色日本大型甲殻類図鑑（Ⅱ）．初版，vii + 277pp.，保育社，大阪．
- 酒井 恒．1976．日本産蟹類．日本語解説版，461pp.，2 figs.，3 maps.，講談社，東京．
- 酒井勝司・細木光夫．2002．オオユビアカベンケイガニ（高知県レッドデータブック〔動物編〕編集委員会，編：高知県レッドデータブック〔動物編〕高知県の絶滅のおそれのある野生動物）pp.230-231，高知県文化環境部環境保全課，高知．
- 須賀秀夫．2003．シオマネキ，ムツハアリアケガニ，ハクセンシオマネキ，ヒメヤマトオサガニ，アカテガニ，クロベンケイガニ，ユビアカベンケイガニ，ハマガニ，ヒメアシハラガニ（愛媛県貴重野生動植物検討委員会，編：愛媛県レッドデータブック 愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物）pp.220-225，愛媛県県民環境部環境局自然保護課，松山．
- 徳島県版レッドデータブック掲載種検討委員会（編）．2001．徳島県の絶滅のおそれのある野生生物．徳島県生活環境部環境政策課，徳島，438pp．
- 山口隆男・馬場敬次．2003．シーボルトとビュルゲルが収集した甲殻類標本（改訂版）（和・英文）．CALANUS（合津マリンステーション報），特別号（Ⅳ）：3-86．
- 山本藍子・水野晃秀・町田吉彦．2007．愛媛県南部におけるタイワンヒライソモドキとヒメヒライソモドキの分布．四国自然史科学研究，（4）：18-21．
- 山本藍子・佐藤友康・町田吉彦．2006．徳島県南部の感潮域と内湾の潮間帯のカニ類（Ⅰ）．四国自然史科学研究，（3）：15-22．
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島 哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤 真・島村賢正・福田 宏．1996．日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状．WWF Japan サイエンスレポート，3：1-181．

（原稿受理 2007年3月31日）